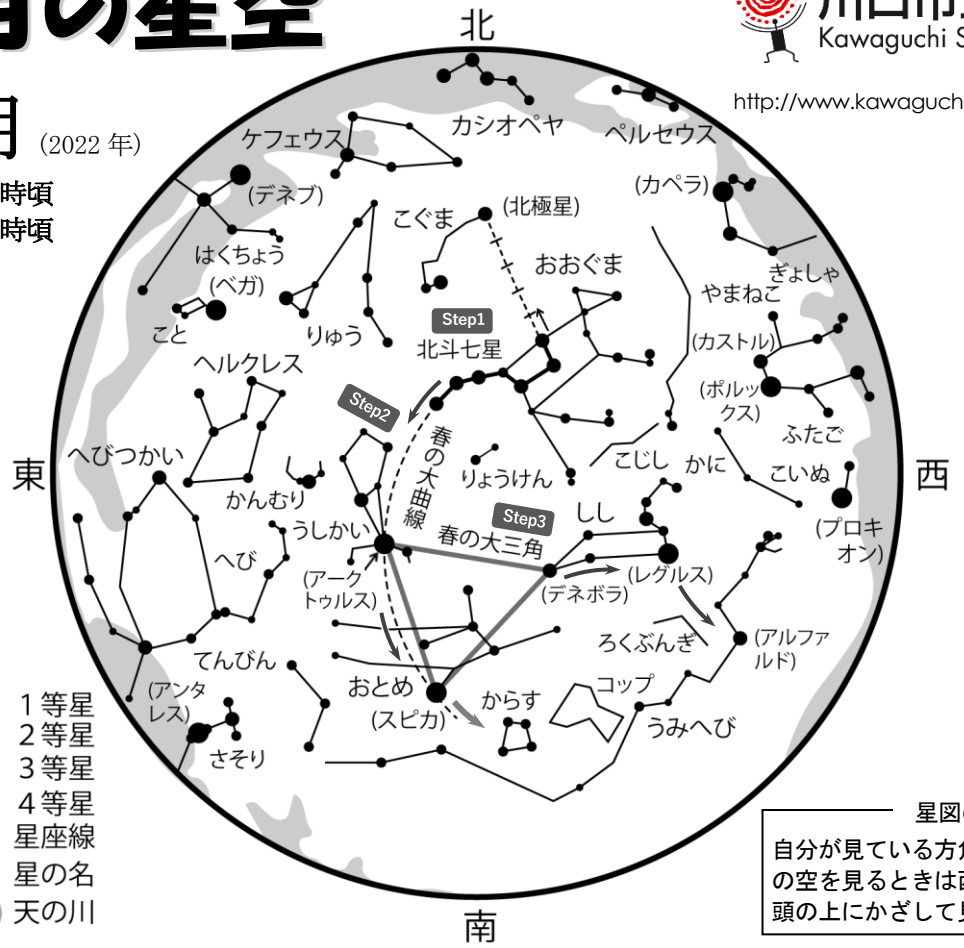
今月の星空

川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum
tel 048(262)8431
http://www.kawaguchi.science.museum/

5月 (2022年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、(西の空を見るときは西を下にして持つ)頭の上にかざして見ます。

月　　齢 ●新月 1 日、30 日、◐上弦 9 日、○満月 16 日、◑下弦 23 日
惑星情報　水星 日の入り後 西(おうし座 1→2 等)※上旬のみ
金星 日の出前 東(うお→くじら→うお座 −4 等)　火星 日の出前 南東(みずがめ→うお座 1 等)
木星 日の出前 東(うお座 −2 等)　土星 日の出前 南東(やぎ座 1 等)

☆春の巨大星座のたどり方

宵の空では春の巨大星座が見ごろとなりました。明るい星が少ないため、星座の全体像をとらえるのは困難ですが、全 88 星座の大きさトップ 3…うみへび座（1 位)、おとめ座（2 位)、おおぐま座（3 位）がそろう壮大な春の星空を、以下のステップを参考にたどってみましょう（星図参照)。

【Step1】北斗七星…ひしゃくの形が目印。春の星座で最もつなぎやすい星の並び。北斗七星はおおぐま座の一部で、その他の星は暗いが、星の並びを見ると熊の姿が想像できる。

【Step2】春の大曲線でおとめ座へ…ひしゃくと見立てた北斗七星の柄のカーブを延ばすと、うしかい座のアークトゥルス（0 等)、おとめ座のスピカ（1 等）へとつながる。これを「春の大曲線」と呼ぶ。

【Step3】春の大三角からしし座、うみへび座へ…Step2 で見つけた 2 つの星としし座のデネボラ (2 等) をつなぐと「春の大三角」となる。デネボラの西には、しし座のレグルス（1 等）があり、そこから約 20 度ほど低い位置にあるうみへび座のアルファルド（2 等）までたどる。

☆明け方の空を彩る惑星たち

4 月に引き続き、夜明け前の南東から東の空にかけて、土星、火星、木星、金星が見られます。観察の目安は、日の出 1 時間ほど前の午前 3 時半前後です。惑星同士の位置関係は日々変わっていき、ニアミスするタイミングもあります。木星に着目すれば、1 日には金星と、30 日には火星と大接近します。

ワンポイント～うみへびの背に乗る 3 つの小星座（星図参照）

【からす座】2 世紀の天文学者プトレマイオスがまとめた、通称「トレミーの 48 星座」のひとつ。春の大曲線からたどることができ、3 等星 4 つが四角を作る。ギリシャ神話では、太陽神アポロンの使いとされている。

【コップ座】4 等以下の暗い星からなるが、からす座同様、歴史は古い。古代ギリシャの杯(さかずき)の形。

【ろくぶんぎ座】17 世紀の天文学者ヘベリウスが星座間の空白域を埋めるように新設した星座のひとつ。自身が愛用していた六分儀(天体観測等で使う測量器具)が焼失したことをしのんで作られたとされている。